

発行
鹿兒島中央高等学校PTA
TEL226-1574

発行責任者
PTA会長 永田晋一

印刷
株式会社印刷

PTA広報誌
鹿兒島中央

卒業生保護者より (50期生ありがとう)

子どもの出会いに感謝

坂之上 尚美

一年前の県総体。九州大会出場決定の瞬間。親は泣いて喜びました。そして、子供たちから「ありがとう」といって、「皆の為に」の息子の姿に成長を感じました。勉強と部活の両立は親が思う以上に大変だったと思います。でも、その大変さの中にも時々話してくれる嬉しさに嬉しく感じることもありました。

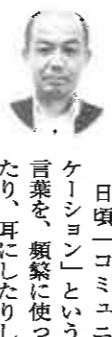
経験のない水泳部に兄の影響で入部。大会では常に友達の手助け。なかなか伸びないタイム。ただただ仲間との時間だけを楽しむような練習の日々でした。そして予期せぬキャプテンの任命。本人が一番驚いていたようです。それから常に「皆の為に」の息子の姿に成長を感じました。勉強と部活の両立は親が思う以上に大変だったと思います。でも、その大変さの中にも時々話してくれる嬉しさに嬉しく感じることもありました。

水泳は個人競技です。でもマネージャーさんと仲間がいてこそ記録となります。常に仲間や先生方に感謝する気持ちで大切にしています。先月も水泳部五十期生親の会がありました。皆さん、この縁をくれた子供達に感謝でした。目標に向かう姿は本当に美しいものです。今年の県総体。親子で応援に行きました。やり尽くした子供達の姿に一年前の息子を重ねました。3年生の皆さん、本当にお疲れ様でした。

部活動引退後は友人と切磋琢磨しながら、勉強に打ち込んでいました。本人が言うには「中央は宿題をきちんとすれば大丈夫」。もちろん息子の努力もしたのですが、先生方の厳しさの中にも優しさを感じ取ったと思います。体育祭では、まさに生徒・先生・保護者の一致団結の言葉に相応しい有終の美でした。受験では、センターで思うように点数がとれず、親は見守るしか出来ない歯がゆさがありました。でも、部活や皆勤など認めていただいたことで、センター試験を利用した推薦入試で大学に合格できました。最後まで諦めない気持ちを学んだようです。

今年の努力目標

PTA会長 永田 晋一



「コミュニケーションが大切」と思いますが、日常の中では直接的なコミュニケーションより、SNSなどを使用したコミュニケーションが増え、それに費やす時間も増えてきました。情報はあふれていますが、時には必要な情報が「正確に」伝わらないことで、失敗や誤解の原因になることもあります。

自分のことを省みると、最近はずっとも話す時間が少ないのが現状です。学校での出来事、クラス、部活動の話や、じっくりと語らなければならぬ進路(将来の夢)など、まだまだ十分ではありません。子どもの想い、親の考え(想い)が、一方通行にならないように少しでも「じっくり語る時間」をつくらなければいけないと思います。なかなか実践できていません。

子どもが「何を考え」、「何に悩んでいるか」は、直接語らなければわからないことが多いです。専ら母親任せになることが多い親子のコミュニケーションを、週報などの学校からの配布プリントをきっかけとして、今年こそは実践していきたいと思えます。

子どもに受け入れられることが「一つの壁」ですが、日常生活の中でコミュニケーションの重要性(意志の疎通・心の通い合い)を、「親子の会話」を通して共有していきたいです。

おじやまします

6月3日、購買部と学食に研修部7名でおじやましました。

変わらぬメロンパン

購買部に入ると目の前に調理パンや菓子パン、弁当が並んでいます。朝ご飯を食べられなかった生徒達は0限終了後にパンで腹ごしらえをすることもありますが、また、お昼ご飯としてパンや弁当を購入する生徒も多いようです。

パンの中でも一番人気は清月ペーカリーメロンパン。清月ペーカリーは大正2年創業の鹿兒島では老舗といえるパン屋さん。親の代からあるメロンパンを在校生が購入してお土産にすることもよくあります。

パンのことは書きましたが、購買部では文房具に加えて組章や校章、靴下なども購入することができます。購買部の永江さんは、顔見知りになった生徒の表情をみて、声をかけてくださることもあるそうです。先生だけではなく、校内の様々な方が子ども達を見守ってくれているのだなと感じました。

おいしくてボリューム満点

続いて学食へ。本日のTodayランチ(340円)は唐揚げとハンバーグの定食。5人はtodayランチを、2人は味噌カツ丼(380円)をいただきました。根強いファンをもつから揚げに加えて、ハンバーグ



学食での取材風景



昼休み開始と同時に殺到する生徒達



today ランチ

の中にはとろりと溶けたチーズが一味増カツ丼は甘辛ソースが食欲をそえる一品。ボリューム満点の食事にお腹いっぱいになった後、お話を伺いました。

学食を利用しよう!

今週から夏メニューに代わり、冷たい麺類も食べられるようになりました。もちろん、冬は体が温まるメニューというように、季節に応じてメニューを工夫しているそうです。人気メニューはカレーや味噌カツ丼、豚玉丼などです。豚玉丼(310円)は鹿兒島中央高校のみのメニューだそうです。日替わりランチであるTodayランチは女子に人気があるそうです。新メニューの唐揚げとカボチャコロツケ(火曜日)も試してくださいとのことでした。

中央高校へ赴任して

校長 江口 公三



県内でも屈指の有名校として、伝統あるこの鹿兒島中央高校に赴任することになった。鹿兒島中央高校と言え、まず「進学校」そしてもうひとつは、あの「団訓」である。そこでまず生徒の進路状況を見てみる。「うが、どうした。」と一声。「名門中央は疲れているのかな。そんなはずはない。元氣を出さないと」と声をかけたくなった瞬間があった。ところが着任してみると、礼儀正しく、そして立ち止まって、元氣よく挨拶してくれる生徒たち。「なんだ、取り越し苦労だったのかな。」と自答した。

校長室に入り、目の前に校是である「三綱領・五条目」が見えた瞬間「はっ」とした。まさに吸い込まれるような文面に引き込まれていった。素晴らしい。

その後在籍している953人の生徒を前にして、話す機会を得たとき、これからやれることを一杯頑張ろう。この生徒たちの将来を決めていく大事なミッションがこれから待っている。生徒一人一人の夢の実現・進路実現(大学合格)に向けて、先生方と一緒に日々の努力を怠らず、頑張っていくことと新たな決意を燃やしたところである。先生方にも年度当初にいくつかの

お願いをしている。

①「チームワーク」の大切さ、②教師としてやるべき「教育活動の充実」③常に前向きな姿勢「進歩するには改善が必要」④やってみせることから始める「師弟同行・率先垂範」など。

学校教育は外部の人から見ると、理解しにくい閉鎖された面があり、なかなかわかりにくいと良く言われる。信頼される学校・開かれた学校づくりが必要だと感じている。私が着任してどこまで取り組めるかはわからないけれど、できることを一つ一つ精一杯やっていけば、生徒たちにとって一杯やるのではないだろうか。一人の力は小さいけれど、みんなが合わせた力は大きなものになっていく。先生方とともに頑張ってみよう。

もう一つ。今度生徒諸君にお願いすること。それは人として大切な礼節「時を守り、場を清め、礼を正す」である。これは教育者の森信三氏の言葉で、学校にとっては社会生活のための三原則。生徒たちが社会に巣立っていくためにどうしても身につけておかなければならないことと考える。

保護者の皆様方へ、子供を育てていく者同士、人の生き方として、嫉の基本として、家庭でも是非話題にしてみてください。この場を借りまして、今後とも学校へのご協力とご理解をよろしくお願いいたします。

珊瑚樹

加藤周一と父 教頭 二石 政彦



本校の一年生が使っている国語の教科書を読んだ。私の好きな芥川龍之介の詩や野田高梧の評論が載っている。私が大人入試でお世話になった加藤周一の評論も掲載されている。

幼い頃、父には新聞と教科書しかなかった。「光」はあったかな。両親も地域の人も方角を失念と、家業の互闘と農業の手伝いをする。父は新聞を読んだ。文字に飢えていた私は毎日食卓のように新聞を読んだ。

高3の部活引退後、受験勉強を開始した。ここで頑張らないと自分の人生は変えられない、と。思っ毎日三時間睡眠で必死に頑張った。本気にすると集中力が持続することができた。

加藤周一の「雑文化」という著作に言及して小論文を書き終えることができた。今思うと、専攻する専攻人であったが私に加藤周一を思い出させたのかもしれない。「中国の歴史の根の反り」は歴史根を題材にした比較文化論であるから。

三綱領
自主 好学 敬愛
校是の由来

三綱領は、柳直一初代校長が定めたものである。三綱領の「自主」・「好学」・「敬愛」は、明治維新期の三人の偉人が重んじた精神、すなわち福沢諭吉の「自主独立」、吉田松陰の「好学愛知」、西郷隆盛の「敬愛人」からとったものである。

追記

研修部の一人のお子さんが先日学食デビューしたそうです。帰省してから、学食の感想を聞いたところ「ボリュームが大きいし美味しかった(また行きたい)」とのこと。クラスで食べる雰囲気と違って、友達とも、いつもより楽しく食事できたようです。

鹿児島中央高校についてもっと知りたいですね。今回は学校行事について。

主な学校行事 (教務部)

① 団体訓練
年間12回実施している創立以来続いている行事です。鹿児島中央高校の記念誌を読むと、50数年前の創立の日の数日後には、既に団訓が行われていたそうです。現在でも、ベルと同時に着替え、数分後にはグラウンドに整列する姿は、鹿児島中央高校同窓生にとっては懐かしいものです。代々引き継がれ中央生の魂を育てるものとなっています。

② ミニミニ中庭コンサート
音楽部の企画で、年間5回程度屋休みに中庭で、ミニコンサートが行われています。中庭を持つ本校の特徴を生かした、全校生徒が屋休みのひと時を爽やかな音楽で楽しめる情緒豊かな行事です。クリスマスには中庭の少女の像もサンタクロースの服を着て、素敵な雰囲気を出しています。

③ 南薩路遠行 (10月)
以前は桜島一周遠行という形での実施でしたが、数年前から降灰の影響を鑑みて、南薩路へコース変更を行いました。ルートは、かせだドームから伊集院の徳重神社まで、31kmのコースを思い思いに走ったり歩いた



り、体と心を鍛える行事です。学年順に出発し、吹上浜を眺めつつ「かめまる館」のチェックポイントを通過。ゴールを目指します。友人と仲良く話しながら歩いたり、自分への挑戦として黙々と走ったりと様々ですが、参加者のほとんどが、男子6時間半、女子7時間半の制限時間内にゴールします。全校生徒、職員で、爽やかな秋の日を楽しんでいます。

④ 国内体験学習 (12月)
2学年が関東方面へ3泊4日で出かけています。ディズニーリゾートが楽しみでしょうが、他にも、スカイツリー見学、東京大学等の大学訪問、先輩を訪ねてと題した、中央高校先輩の企業訪問をし、最新の情報や社会人としての心構えなどをご教授いただく取り組みも行っています。

ホームページ

本校の最新情報は、ホームページをご覧ください。ホームページは、ブログ形式で作られており、その日行われた行事など、タイムリーに発信しています。県内でも更新頻度としては、ナンバーワンと賞賛しており、この形勢が、もう10年近く続いていることになりました。

他にも、学習室や情報や進路情報、各種たよりなどもPDFファイルとして読めるようになっていきます。右のQRコードを利用して、スマートフォン等で簡単にアクセスできるようになっています。行事で一息を入れたいようなときに、学校の様子をチェックされてはいかがでしょうか？



先輩

教育実習生に大学生活について質問しました。質問内容は、

- ① 研究内容と所属する学部学科について
- ② 大学での学生生活について
- ③ 自分自身の進みたい進路や所属する学部学科の進路状況
- ④ 後輩へのメッセージ

の4点です。多くの教育実習生に協力していただきましたが、今回は二人の先輩の回答を掲載します。教育実習生の皆さん、ありがとうございました。

山口 健人
(47期生、鹿屋体育大学体育学部スポーツ総合課程)

- ① バスケボールのドリブル、特に得点につながるドリブルを映像から動作分析するという研究をしています。鹿屋体育大学は全国で唯一の国立体育大学なので、日本代表や国際大会に参加するような選手も多く、とても刺激になります。当然、スポーツ科学の分野ではとてもレベルの高いものがあります。
- ② 鹿屋体育大学は鹿屋市街地から遠く、落ち着いた雰囲気の中、部活動に熱心に打ち込みます。自然豊かな鹿屋では海に行ったり、川へ行ったりしている学生も多くいます。アルバイト禁止の部活動もありますが、私は居酒屋で2年ほどアルバイトしています。
- ③ 教員がバスケボールのプロ、または実業団でプレーする選手を目指しています。先輩の就職状況を見ると、卒業後、プロ選手や実業団でプレーする人も結構います。
- ④ 高校の頃を思い出すと、大学について全く知らなかった。積極的に大学に関する情報収集をして、学部学科でどんなことが学べるのかしっかりと調べてから大学を選択してください。自分自身も大学で学びたいと思っていたことの中に、学べないことがあることを入学後知りました。しっかりと情報を得て、大学での目標を明確にすれば、大学生活がより充実したものになると思います。

坂口 大河
(47期生、鹿児島大学理学部数理情報科学科)

- ① 主に微分方程式による数理モデルや数値解析を勉強しています。具体的には、人口増加による問題や人工透析器(人工腎臓器)などを数学的にモデル化して理論的に検証することを行っています。大学では高校の数学とは違い、数学の本質を勉強します。数学は抽象化された概念が多いので、自分でとことん考えることが重要な学問です。しかし、わからないことはみんなで考えたり、テスト前などは一つの部屋に集まってみんなで協力したりするので、高校時のクラスみたいにわいわい楽しんでいます。
- ② 硬式庭球部に所属しています。部活なので、本気でテニスを頑張りたいと思っている人が集まります。主将を務めたこともあり、とても大きく成長できたと思います。また、社会で必要なことを学ぶことができました。大学生は大人なので、自分の行動に責任を持つことが大学生活を楽しむコツだと思います。
- ③ 私は数学の高校教師を目指しています。学科の友達も教師を目指している人が多いです。しかし、進路は教師以外にもあり、銀行・金融、ITなどの企業に就職する人も多いです。数学を学ぶことを通して身につく論理的な思考は企業でも重要な能力だと思います。
- ④ 高校生活でも大学生活でも言えることは、「時間を大切に!」ということです。学生という期間は人生の中でも自分を成長させることができる貴重な期間だと思います。その期間を有意義にするためにも、高い目標を持ってそれに向けて夢中に打ち込んでほしいと思います。



子どもが机に向かっていて安心していませんか？進路指導部に学習のポイントを聞いてみました。

〈学習のポイント〉

6月の進路志望調査で志望の多かった国立大学進学をメインに学習のポイントを挙げてみます(教科別の方法に関しては、年度当初に説明があったはずなので省略します)。大学入試センター試験で基礎学力を測り、個別二次試験で大学が要求する学力(知識を活用する力)を有しているかどうかの判断がなされます。例年50万人超が受験するセンター試験ですが、国立大学の定員は約10万人という非常に狭き門です。

① バランスの取れた学習を心掛ける
教科の目安はC-passに示してありますが、自分の得意・不得意によってバランスを崩えることは必須です。センター試験では5教科の得意勝負。二次試験では基本的に得意教科で勝負する訳なので、得意教科を伸ばすことももちろん大切ですが、その得意教科を最大限に生かすためにも、特に1・2年次は苦手教科を作らないことが重要になってきます。

② あくまで「授業中心」、自分なりの学習スタイルを早期に確立すること
学校の授業がメインです。その授業を最大限に生かすためには、しっかりと準備をしたら授業に臨むことです。予習で理解できない部分をはっきりさせて、授業の中で理解して、帰宅後に復習する。試験前は、理解したはずの箇所を再度確認していくという学習を地道に繰り返すこと以外に方法はないと思います。「量より質」が重要だとよく言われます。しかし、質の高い勉強法は、まずは時間をかけて様々な工夫をし、失敗を重ねていく中で見つかるものだと思います。

③ 自分の頭でとことん考える
「勉強＝暗記」だけではありません。大学入試に限らず、将来社会

で必要となるのは、「身につけた知識をいかに活用できるか」という部分です。必要なことを覚える作業は確かに大切ですが、「なぜそうなるのか？」を常に考えながら、自分が身につけたはずの知識が本当に使えるレベルにあるのかどうかを、定期考査・実力考査・模擬試験で確認して下さい。

④ 履修に
本校に入学してきた生徒は、高合格率の高校入試を乗り越えてきた生徒たちですが、そうした成功体験から、大学入試も3年になってから、部活動を引退してから必死で準備をばという思い違いをして、3年になってから急に通う生徒も残念ながらいます。「説明を聞いて分かること、解答解説を眺めながら勉強＝問題を解決する学力が身につく」のではありません。分からない部分こそ自分自身の頭でじっくり考えることでしか、本當の理解での学力は身につけません。そして、そのためにはある程度の時間をかけるしかないというのが現実です。手を抜いた部分・楽をした部分は、どこかで自分の責任で埋め合わせをしなければならぬのが大学受験だと思います。厳しい言い方ですが、結局は、とうとう学習を3年間継続してきたのか、どれだけの努力をしてきたのかを客観的に判断するのが大学入試ということ。もう一度確認することも必要なのかも知れません。

Q & A

高校に入学したのはいいけど分からないことが多いのは1年生保護者の質問に、答えてもらいました。

中学校との違い、進級について教えてください。

学習に関しては、朝の課外から、3年生になると放課後課外も組まれ、大学入試に十分対応した学習時間を確保するよう計画されています。また、模擬試験なども多く実施し、全国的な試験に対応できるよう力をつけています。更には、欠席日数が多かったり、成績不振だったりと、原級留置といって、もう一度同じ学年を履修しなければならぬのも、高等学校の特徴と言えます。中学校との違いは、義務教育ではないという点が最も大きいです。しかし、通常の学習し、宿題等の提出物も出すなど不断の努力を怠らなければ、テストだけで決まるわけではありませんので心配はいりません。

部活動と勉強を両立するコツを教えてください。

「限られた時間の中でいかに時間を確保するか？」これに尽きます。ほぼすべての受験生が抱える問題ですが、卒業生がそうであったように、意識の持ち方次第で両立は可能です。次のような工夫はどうでしょうか？

- ① 帰宅前にやるべき事をリストアップして、帰宅後すぐに勉強を始める。自分自身にもルマを課すことで緊張感を維持して睡眠に打ち克つ。不得意な教科から先に取り掛かる、学習室を上手に利用する、等。

平成27年度 県高校総体結果

今年も女子バスケットボール部ベスト4を筆頭に、多くの部活動が好成績を残してくれました。



サッカー部 ベスト8、テニス部 (男子団体) ベスト8、(女子団体) ベスト4、(女子ダブルス) 大渡 董・元山果南 ベスト8、バスケットボール部 (男子) ベスト8、(女子) ベスト4、バドミントン部 (男子団体) ベスト8、(女子団体) ベスト8、(男子シングル) 西原口嶺 ベスト8、(女子シングル) 淵田彩夏 ベスト8、陸上競技部 (個人) 永田拓海 200m 6位、勇島海斗 400m 4位、平尚浩 400mH 5位、水泳部 (個人) 日高世稀 200m 個人メドレー 2位、坂口空 200m バタフライ 4位、100m バタフライ 5位、西村真知 100m 自由形 6位、徳田結生 200m 背泳ぎ 7位、木塚早紀 200m 自由形 5位、(リレー) 川口礼央奈、森海渡、倉内優哉、水吉雪之介、植木義将) 800m リレー 6位、400m リレー 5位、400m メドレーリレー 5位

② 机に座ってやることだけが勉強ではありません。隙間の時間を活用して下さい。まずは、1日の生活習慣の見直し！勉強を阻害する要因の洗い出し！バスの待ち時間や登校後のちょっとした時間といった、心掛け次第では有効に使える時間は結構あるものです。

推薦入試はどんな準備をしたらいいですか。

残念ながら、これをしてあげばいいというものはありません。まずは自分の将来につながる、興味のある分野についての理解を深めることです。「目標的な取り組み」の中から、自分の将来像が見えてきます。目標実現のために何をやるべきかがはっきり見えてきます。そして、勉強することの意味を見出し、手方も身につけていきます。「推薦」が生徒の持つ魅力を最大限に生かせる手段だという判断ができる場合、担任・学年会・進路指導部の方から提案します。

時事問題を考える時間をどう確保したらいいですか。

想像以上に社会の動きは速く、その変化をキープするアンテナを張り巡らして「現在の学習がどんな形で社会とつながるのか」を常に意識しておくことが重要です。まずは「一読三嘆」にしっかりと取り組むことです。そして「毎日、新聞を読む」時間を確保するのが難しいのであれば、週末にまとめてニュースをチェックし、自分の興味のある分野に関する記事だけでもスクラップし、疑問点を調べ、自分なりの考えをまとめることが大切です。(ネットは利用者が興味を持ちそうな情報を選んで配信します。また、情報源が不明なものもあるため、真偽の判断が必要です。氾濫する情報から自分に必要な情報を選択する力も身につけておきたいものです。)